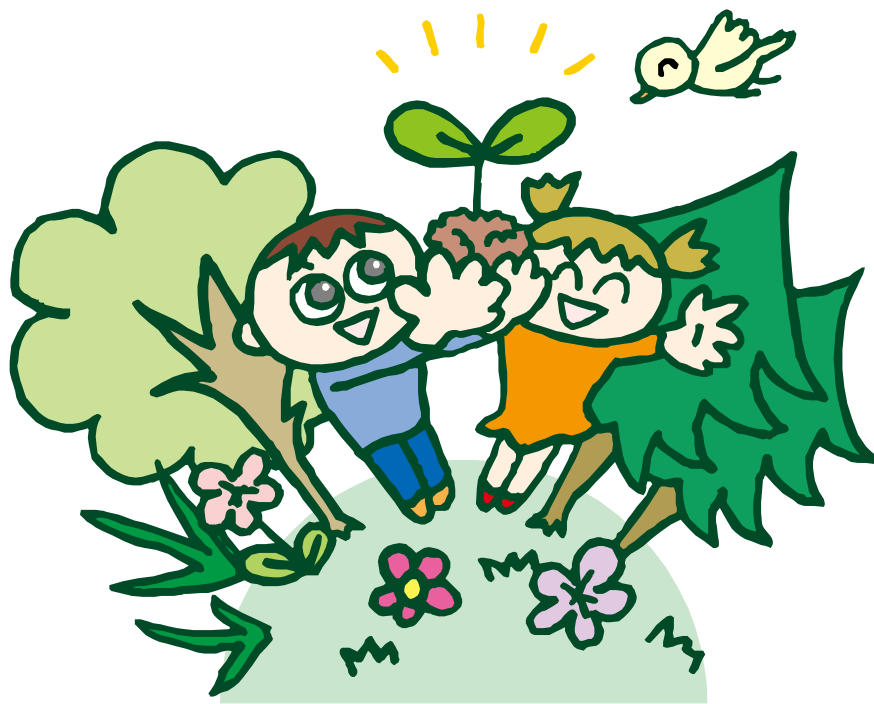


立川市 協働のまちづくり 推進事業補助金 報告書

令和5年度補助金交付対象事業



立川市
令和6年8月

協働のまちづくり推進事業補助金とは

この補助金は、市民力を生かしたまちづくりの実現のために、多様な団体が連携・協働し、地域課題解決を目指して自発的に取り組む公益的な事業を支援するための補助金です。

ここでは、下記の二つに区分して令和4年度に募集し、審査を経て令和5年度に実施した事業の内容を報告いたします。

- ・協働事業…市民活動団体等が市以外の他の団体と連携および協働し自発的に取り組む公益的な事業
- ・アイデア提案事業…市民活動団体等が市との協働を提案して取り組む公益的な事業

■令和5年度事業 活動報告 目次

事業名	応募団体名	ページ
まちなっとカフェ「よろず相談室」 ＜協働事業＞	代表団体：にしき傾聴クラブ	1
	協働団体：NPO 法人ブーゲンビリア 多摩ホスピスの会	
外国人児童・生徒生活支援事業 ＜アイデア提案事業＞	たちかわ多文化共生センター（TMC）	6
	協働相手：立川市市民生活部市民協働課 立川市教育委員会指導課	
はじめての音楽会～心豊かに育つには ＜アイデア提案事業＞	特定非営利活動法人 立川子ども劇場	11
	協働相手：立川市産業文化スポーツ部 地域文化課	
世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが 幸せに生きるまちづくり啓発事業～ ＜アイデア提案事業＞	世界こどもの日 in 立川実行委員会	16
	協働相手：立川市子ども家庭部 子育て推進課	

※成果物等は、紙面の都合上、提出されたものの中から抜粋して掲載しています。

＜令和5年度 協働事業＞

まちなえっとカフェ「よろず相談室」

補助金交付予定額： 114,700円

補助金交付額（実績）： 71,100円

代表団体名：にしき傾聴クラブ

協働団体：NPO 法人ブーゲンビリア、多摩ホスピスの会

よろず相談室 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	2023 年4月1日 ～ 2024年3月31日
事業の実績 及び内容 ＊「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いてく ださい。	・毎週1回、4団体が順番に相談室を開催した。 ・場所は、社会福祉協議会が借り上げている羽衣町の1軒屋を拠点として開催した ・対象者は、立川市市民及び近隣の住民であれば誰でも立ち寄り相談が可能 ・「傾聴クラブ」「NPO法人ブーゲンビリア」「立川市訪問看護連絡会」「多摩ホスピスの会」が毎週1回(木曜又は水曜)に(よろず相談室)の旗を立てて、立ち寄った人の健康や住まい、今後の介護や終末の相談に乗ってきた。 ・看板やチラシを配布したので、事前予約によって近郊から訪問する人も多かった。 ・会のイベントとして、5月に認知症の市民啓発として映画会「ボケますからよろしくお願いします」を上映し96名の参加を得た。 ・9月に終日の相談室を開催し、バザー、買物袋づくりのイベントを開催した。 ・勇美記念財団の助成金を得て、認知症講演会、在宅介護の始め方シンポジウムを4団体の共同事業として開催した。
一般参加・利用者 人数 ＊団体・来場者数等	毎週2-3名の相談訪問があり、イベント参加の96名と合わせて150名以上の参加者となった。
事業の成果・効果	・「よろず相談室」の活動を通じて市内のボランティア4団体の交流と親交が深まり、市内の高齢者や障害者への支援活動の一層の進展に繋がった。 ・相談室にやってくるお年寄りや障害を持ったかたの話をじっくりと聴くことが出来、相談者は、日頃の医療機関、薬局の受診時には聞けない細かい相談にもものってくれることで大いに満足していた。 ・イベントでの高齢者介護や看取りの話題は参加者には大いに感銘をあたえた ・認知症の映画会、講演会、在宅介護シンポジウムと多彩な取り組みを4団体で行った

よろず相談室 自己評価書

自己評価書

1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みましたか。(計画から実施・評価まで)	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由 ・毎月4週名の木曜日は4団体の打ち合わせ会として、月の相談者の相談内容、今後の方針を常に話し合ってきた。 ・今年はイベントを4回も実施し団体の協力度が増した
2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請（計画）時に期待した効果をあげることができましたか。	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由 ・4団体の活動を知り、各団体の年間活動へもお互いが参加するなど昨年度の親交を深める段階から更に実際の協働活動へ発展した。 ・立川市のボランティア活動の方向性等を話しあうことができた。 ・富士見包括、羽衣包括の協力によって活動が広まってきた
3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。	・医療機関受診時には時間が無くて聞けない話題にもこのよろず相談室では時間を掛けて応えてくれるなど安心感につながった。 ・認知症が良く分かった ・介護が必要になった時にどこに相談するか分かった
4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。	・相談内容は終末期での医療、在宅医療・看護・介護の受け方過ごし方、遺産相続に関して、認知症の対応、看取り体験談等多岐にわたり話し合った。各団体の当番週には複数のスタッフが集まったため今後の会の活動方針など話し合う機会が増えたことが良かった。 ・患者団体であるNPO法人ブーゲンビリアの活動に他の3団体も参画しより幅広い市民交流が可能となった ・各団体が協力し、他の助成金企画へも協力して関与できた (協働団体) 実践者の健康リテラシーが上がり、今後の自身の医療・看護・介護に繋がる一つのきっかけの活動になった。次なるステップとして、ケアを通じて、市民にやさしい街づくりへ貢献する活動ができればと感じている。
5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。	・2023年度はWITHコロナとして、相談時に、お茶会、昼食会などを開催し、単なる相談では無く、近隣の引きこもりの高齢者などになごめる機会を提供したい。 ・他のボランティア活動や医療施設による啓発活動とは異なり、市民目線で活動を継続するボランティア集団となるように務める。 ・バザー、映画会で寄付金も集めることが出来、今後の会の運営の継続に使えることとなった。

* 当てはまる番号を○で囲む、又は客観的に評価した内容を、事業を実施した皆さんで振り返り、記入してください。

よろず相談室 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	1 1 4, 7 0 0	7 1, 1 0 0
団体負担金	1 4, 7 0 0	6 7, 6 8 9
寄 付 金	1 0 0, 0 0 0	3, 4 1 1
合 計	2 2 9, 4 0 0	1 4 2, 2 0 0

支 出

単位：円

科 目		予 算 額	決 算 額
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	1 2 0, 0 0 0	4 8, 0 0 0
	消耗品費	3 0, 0 0 0	5 5 0
	印刷製本費	3 0, 0 0 0	4, 2 0 0
	通信運搬費		
	使 用 料	1 5, 4 0 0	8 7, 7 0 0
	保 険 料	2, 0 0 0	1, 7 5 0
	交 通 費	3 2, 0 0 0	
	小 計(A)	2 2 9, 4 0 0	1 4 2, 2 0 0
その他	小 計(B)		
合 計(A)+(B)		2 2 9, 4 0 0	1 4 2, 2 0 0

よろず相談室 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 毎週開催されていて素晴らしいと感じた。週によって多少テーマが変わると思うが、相談者の内容で特徴があったものや、参加者が集まったテーマとかはあったか。

A. 相談に来られる人は今日はこのテーマだから来るというわけではないので週によって特徴のある相談内容があったわけではなかったが、第3週は看護師が来ると周知しているので、実際に訪問看護師が入っている方の家族が来るということがあった。毎回同じような相談をされていたが担当の看護師は丁寧に対応してもらっていた。傾聴に努め相談者に寄り添うことが毎回共通していた。

Q. 今後は補助金がなくても活動していけるか。

A. 家賃等がかかっておらず、またボランティアが主であるので運営はしていける。

Q. 障害がある方や高齢者など様々な方が来られたようだが、その割合はどれくらいか。

A. 第2週は元々ブーゲンビリアの回であり以前から癌患者やその家族が多かった。それ以外は基本的には高齢者が多かった。

Q. 今後活動していく上で、訪問看護の団体が協働から外れてしまうことに何か支障はあるか。参加者は男性、女性どちらが多かったか。

A. この活動はあくまでボランティアであり具体的に問題については医療、介護につなげていくことになる。高齢者などの話し相手になることがメインの活動である。参加者は圧倒的に女性が多かった。

＜令和５年度 アイデア提案事業＞

外国人児童・生徒生活支援事業

補助金交付予定額： ５００，０００円

補助金交付額（実績）： ２０８，８７７円

団体名：たちかわ多文化共生センター（TMC）

協働相手：立川市市民生活部市民協働課

立川市教育委員会指導課

外国人児童・生徒生活支援事業 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	2023・04・01 ～ 2024・03・31
事業の実績 及び内容 ＊「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いて ください。	(1) 児童・生徒相談窓口 ※詳細な報告は別紙を参照のこと。 実施回数：41回、実施場所：子ども未来センター、その他、対象者：海外ルーツの親子、実施体制等：コーディネーターが適切な言語を用いて対象者の相談に応じる。必要に応じてYSCグローバルスクール等への付き添いも行う。 (2) 子ども日本語教室 実施回数：小学生クラス、中学生クラス、各40回、参加者数（延べ人数）：小学生クラス 児童288名 サポーター543名、中学生クラス 生徒258名 サポーター494名 実施場所：子ども未来センター、対象者：海外ルーツで日本語指導を必要とする児童生徒、実施内容：3名の支援者チームが児童生徒1名を支援する。週一回水曜日に45分～1時間の個別日本語指導を行う。実施体制：事業実行委員長を中心に、教室係、研修担当、総務会計係がそれぞれ運営実務を担い、支援者チームが教室で授業を行う。 (3) 放課後日本語教室 実施回数：延べ75回、実施場所：立川市立第2小学校、同第10小学校、同松中小学校、対象者：ネパール人、米国人、中国人の児童4名、実施内容：週1回放課後に学校において個別の日本語指導を実施。実施体制：支援者1名が一人の児童を担当する。実施方法：個別の対面授業。 (4) 交流イベント活動 実施回数：2回（2023/8/12, 2024/3/16）、実施場所：子ども未来センター、対象者：つばさ児童生徒及び家族、友人、つばさ支援者、一般参加者、実施内容：子どもが楽しめる体を使った遊び、実施体制：学生ネットワークによる企画・実行、実施方法：学生ネットワークが中心となり、準備から当日までを担当した。つばさ運営陣が必要に応じて手伝った。
一般参加・利用者 人数 ＊団体・来場者数等	つばさ児童生徒数：年度開始時12名、年度終了時16名 支援者数：年度開始時46名、年度終了時50名
事業の成果・効果	教室に通って来る児童・生徒の出席率は高く、外国に繋がる子ども達に取っての居場所として根付いて来たと思われます。同じ出身国の子ども同士だけでなく、異なる国出身の子ども達も親しくなりつつあり、子ども達の笑顔が溢れる場となっています。保護者・支援者からの相談には素早く対応するよう努めており、気軽に相談が出来る場所にもなっています。YSCグローバルスクールとの連携により、昨年度と同じく、つばさに通う中3の生徒全員が高校に合格しました。出来るだけ早期にYSCに繋ぐ事により、日本語のみならず教科学習に対しても徐々に意欲が出て来ています。小学校・中学校との連携は未だ十分に取れているとは言えない状況ではありますが、少しずつつばさの知名度が上がって来ていると感じています。今後更に学校との連携を強める事により、子ども一人ひとりへのきめ細かく又効率的な支援が可能になるであろうと考えます。学習支援者を対象とした研修会は、回を追うごとに充実して来ており、学習支援者のレベルアップに繋がっています。学生支援者が主導する「お遊び会」では、子ども達・その友人・保護者・支援者間の交流が可能となり、毎回和気あいあいとした雰囲気の中で一緒にゲームを楽しんでいます。つばさ開校以来2年が経ち、開校当初には想像出来なかった程に、楽しく有効な支援の場として機能していると実感しております。

外国人児童・生徒生活支援事業 自己評価書

自己評価書

1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みましたか。(計画から実施・評価まで)	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 市民協働課との連携が更に進み、対等の立場で相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みました。学校又は保護者から市民協働課から支援に関する問い合わせがあった場合にはTMC事務局又は児童・生徒生活支援事業委員会に連絡があり、早急に子ども達への支援に繋ぐ事が出来ました。前年度より効率良く支援を始める事が出来たと思います。
2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請(計画)時に期待した効果をあげることができましたか。	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 市民協働課と協働で事業を実施する事により、子ども達への支援をより迅速に実施出来るようになりました。日本語学習の面だけではなく、子ども達の居場所として定着して来た事が実感出来ます。小学校・中学校との連携を今後更に推し進める必要がありますが、当初予想していた状況をはるかに凌ぐ程の効果をあげる事が出来たと思っております。
3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。	学生支援者主導で年2回(8月及び3月)に実施している「お遊び会」及び支援者対象の「研修会」を通じて、一般の方々から子ども達・保護者・支援者と触れ合う機会があり、普段なかなか交流する機会がないのですが「このような機会があって嬉しかった。」「自分も支援に参加してみたいな。」等の感想を頂いています。保護者からは「子どもがつばさに通うのを楽しみにしている」「つばさに通い出して、明るくなった」「相談に乗ってもらえて助かる」等の感想が寄せられています。今後更に交流の機会を増やして行く事が出来ればと考えます。
4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。	実施団体の「TMC 児童・生徒生活支援事業委員会」では、2022年5月に自主事業として「立川子ども日本語教室」を立ち上げ、日本語支援・生活支援にあたって来ましたが、その事により、これまでよりも深い外国出身者の方々の状況把握が可能となり、役に立ちそうな情報を迅速に伝えられるようになったと思います。 (協働団体) 立川市市民協働課・指導課 窓口や電話で外国人児童・生徒やその保護者、学校等からの相談があった際に、解決に向けて動いていただけた相談先ができたことで、外国人支援が広がりました。外国人と接する現場があることで、東京都等の制度等を直接、的確に周知することが出来る機会が増えました。また、防災館体験ツアーにも参加していただき、防災・生活情報等を提供する場にもなりました。
5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。	日本語教室を毎週実施する事により、日本語支援のみならず、子ども達の居場所となり、同国人および異国人の友達が出来た場となりました。保護者にとっては相談出来る場として機能していると思います。YSCグローバルスクールとの連携により、中3の生徒3名は全員進学先の高校が決まりました。YSCに繋げた子ども達は、日本語及び教科の学習に意欲的になりました。複数の子どもが同時に指導を受けるYSCとは違い、児童・生徒の一人一人に支援者2～3名が対応するつばさの支援方法は「とても嬉しいし、助かる」との評価が子ども達から出ています。今後は小中学校との連携を強め、更に効率的に支援する事が課題です。北口方面に暮らす子ども達の支援をするには、つばさパート2のような教室の設立が必要だと思われます。

* 当てはまる番号を○で囲む、又は客観的に評価した内容を、事業を実施した皆さんで振り返り、記入してください。

外国人児童・生徒生活支援事業 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	500,000	208,877
会 費	0	0
寄付金	580,000	1,316,800
他機関からの補助金	550,000	221,000
返金、預金利息等		6,948
合 計	1,630,000	1,753,625

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	45,000
	消耗品費	36,456
	印刷製本費	37,584
	通信運搬費	1,830
	使用料	6,387
	保 険 料	2,780
	その他	78,840
	小 計(A)	208,877
他 その	小 計(B)	1,544,748
合 計(A)+(B)	1,630,000	1,753,625

外国人児童・生徒生活支援事業 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 事業報告書にある YSC グローバルスクールとの立ち位置の違いは。

A. 今回の活動は日本語教室なので日本語の語学力向上を目的としており、YSC は教科の指導をして学力の底上げを目的としている。勉強が理解できなくなると YSC に依頼することになる。

Q. 学生がボランティアをしているが学生は卒業してしまうと続けることは難しいか。

A. 学生ボランティアは卒業、就職すると辞めてしまことが多いが、同じゼミなどのつながりで新しい学生が来てもらっているので、ある程度学生ボランティアの循環ができています。

Q. ボランティアになる人の資格や外国語の能力は必要なのか。

A. 資格や能力は不問で多文化共生に理解のある人を求めている。ボランティアには日本語教師の経験がある人もいますので研修などを行っている。

Q. 今回行政へのアイデア提案事業であったが、今後継続していくうえで行政への要望などはあるか。

A. 令和 6 年度から立川市より委託を受けて事業をしている。委託事業として継続できることを希望している。

＜令和5年度 アイデア提案事業＞

はじめての音楽会～心豊かに育つには

補助金交付予定額： 475,260円

補助金交付額（実績）： 310,439円

団体名：特定非営利活動法人 立川子ども劇場

協働相手：立川市産業文化スポーツ部地域文化課

はじめての音楽会～心豊かに育つには 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	2024・3・23 ～ 2024・3・24
事業の実績 及び内容 ＊「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いてく ださい。	松本雅隆さんの保護者向け講演会（30分）とロバの音楽座による乳幼児とその保護者向けコンサート「ポロンポロン」（45分）を同日開催で行う。実施場所と実施回数：①3/23（土）柴崎学習館 ②3/24（日）西砂学習館 それぞれの場所で講演会とコンサートを1回ずつ同日に行う。対象者：0, 1, 2歳のお子さんとその保護者。実施内容：長年音楽活動をし、経験豊富な松本雅隆さんから0,1,2歳のお子さんを持つ保護者の方に、音や音楽について保護者が好きな音楽を聞く流すことで家族が楽しい時間をゆったりと過ごすことが大切、いろんなジャンルの音楽を聞かせることで心豊かな生活を送り、その後の人生においても生の芸術に触れることの重要性等をエピソードを交え話して頂く講演会。その後、親子でロバの音楽座のコンサート「ポロンポロン」を鑑賞してもらう。実施体制：地域文化課は会場押さえ、チラシ配付の許可等を担い、事前準備、当日進行は立川子ども劇場の会員が実施。当日会場づくり、片付けは地域文化課と劇場会員協働で行う。実施方法：参加者はQRコードからPEATIX（電子チケット販売システム）へ申し込み、参加料金を徴収。講演会は大人のための参加とし、その間保育を別室で行う。15分の休憩後「ポロンポロン」のコンサートを親子一緒に楽しむ。当日地域文化課も会場作りから参加し、親子の様子も見てもらう。
一般参加・利用者 人数 ＊団体・来場者数等	①3/23（土）参加人数：一般10世帯、会員2世帯（大人17人・子ども13人）、スタッフ15人、ロバの音楽座5人 ②3/24（日）参加人数：一般8世帯、会員1世帯（大人14人・子ども11人）、スタッフ11人、ロバの音楽座5人
事業の成果・効果	今回は特に父親の参加も多く、両親とお子さんという組み合わせが目立った。子育ては父、母共にやることだが、保育があることで保護者だけで「この時期に大切なこと」という演目の講演を両親揃って落ち着いて聴けて共通した認識ができたのは良かった。その後すぐに親子みんなでコンサートを鑑賞したので、親は子どもの様子に注意深くなり、0歳からでも音を楽しんで聴いているお子さんを感じていた。そして子どもも大人もみんな笑顔で音にのって体を揺らし、手足を動かしたり、たたいたりして楽しんでた。親子で共通の音楽を楽しみ、保護者はとてもすばらしい子育ての時間が持てた事は、子育ては大変なこともあるけど、楽しいこともいっぱいあるということを鑑賞を通して家族で共有できた。これはこの事業の大きな成果であり効果だと思う。また、2か所の別々の地域で開催でき、広範囲に文化芸術を届けれたことは大きな成果である。

はじめての音楽会～心豊かに育つには 自己評価書

自己評価書

1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みましたか。（計画から実施・評価まで）	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由：立川子ども劇場が間に入り、地域文化課、創造団体と三者で打ち合わせを行い、日時、会場、内容の確認をしっかりとやった。地域文化課と立川子ども劇場の協働のまちづくり助成金はこれが3回目となり、今後この活動を助成金なしで立川子ども劇場がやることも視野に入れ、参加費を取ってやってみる事なども三者で相談しながら進めた。会場手配、乳幼児健診でのチラシ配布許可、学習館や図書館へのチラシの送付、広報への掲載に関しては地域文化課に担って頂いた。また、当日も設営等の準備から片付けまで三者協力して行えた。
2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請（計画）時に期待した効果をあげることができましたか。	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由：立川子ども劇場だけでは、会場も市の施設や学習館も抽選にもれ、思うように確保できない。地域文化と協働することで、今まで取れたことのない柴崎学習館のホールを使用でき、ありがたかった。そのおかげで柴崎地区と西砂地区で実施でき、市の中心部ではない地域の方に対して文化芸術に触れる機会を設けることができた。また、広報活動力は、知名度、信頼性においても地域文化課と協働することで立川市全域の幼稚園、保育園にチラシ配布が出来た。しかし、中には人手が足りないので置きチラシで、保護者の手に届かない場合もあった。また、市報に載ることでより高い信頼感を得ることができた。
3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。	アンケートを参照ください
4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。	（実施団体）：「はじめての～」という形で3回実施してきたが、乳幼児の芸術文化に触れる大切さは、乳幼児のみならず親子で楽しむ時間を子育ての中に取り入れて家族みんなが笑顔で過ごす時間となること。それは保護者にとっては我が子の穏やかな思い出や意外な発見となり、子どもにとっては未来への可能性や心の肥しになることを改めて確信した。今後も乳幼児向け鑑賞を立川市の全域を視野に入れ行いたい。しかし、鑑賞への参加費設定の難しさや会場押さえなど立川子ども劇場単独での運営には難題があることもわかった。 （協働団体）：小さなお子さんに生の演奏を聴かせることはできないと考えていた方が、今回の事業に來たことでそんなことはないと思えたと考えている。それを柴崎地区と西砂地区で実施できたことは文化芸術に触れる機会の創出につながった。
5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。	今回の感想からも乳幼児とその保護者に向けた芸術文化を鑑賞する取り組みは、乳幼児でも劇や音楽を鑑賞することができ、家族みんなが楽しい安らいだ時間を過ごせる素晴らしいことだと評価できた。また、親向けの今の我が子に向けた講演会を鑑賞前にやる取り組みも高評価を頂けたと思う。立川市の子育てを親子で楽しむ企画として毎年続けてやれたらいい。今回が地域文化課との最後の協働のまちづくり補助金推進事業となるため、立川子ども劇場が独自で運営するには参加費をどのくらいに設定するのがいいかを試してみた。ロバの音楽座は立川に拠点を置く団体なので、知名度もあるためおやこ4,000円、一人追加2,500円と高めの設定にしてみた。30組の募集だったが、どちらの会場も半分以下の申込数だった。乳幼児のお子さんを持つおやこには、子どもの体調がどうなるかわからない恐れもあるのか、少し高すぎたようだ。しかし、申し込みをした方は100%きてくれた。過去2回は人形劇を無料でを行い、当日キャンセルが多かったことを思えば、有料でやる意義は大きい。今後この経験を生かして適正な参加費と運営経費をどう捻出するか、考えていきたい。

* 当てはまる番号を○で囲む、又は客観的に評価した内容を、事業を実施した皆さんで振り返り、記入してください。

はじめての音楽会～心豊かに育つには 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	4 7 5, 2 6 0	3 1 0, 4 3 9
事業収入		9 7, 5 0 0
合 計	4 7 5, 2 6 0	4 0 7, 9 3 9

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	3 9 2, 8 8 0
	消耗品費	2 5, 4 0 0
	印刷製本費	1 7, 0 0 0
	通信運搬費	2 9, 9 8 0
	使 用 料	0
	保 険 料	1 0, 0 0 0
	小 計(A)	4 7 5, 2 6 0
そ の 他	小 計(B)	0
合 計(A)+(B)	4 7 5, 2 6 0	4 0 7, 9 3 9

はじめての音楽会～心豊かに育つには 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

- Q. 今回イベントを有料で開催されたとのこといいチャレンジだと感じたが、今後の活動の展望があれば教えてほしい。
- A. 0, 1, 2 歳向けのイベントでお子さま有料は抵抗がある人がまだまだ多い。親子の体験活動に価値を感じていただけるよう、SNS やクラウドファンディングなどで全国へ我々の思いを知っていただく活動にも力を入れていく。
- Q. クラウドファンディングを実施するきっかけなどを聞きたい。
- A. 子ども劇場、親子劇場の活動が危機に瀕している。子どものうちから文化に触れる機会を作るため、自分たちが成功することにより立川市だけでなく文化を届けたい団体を全国的に元気にしたいとの思いからクラウドファンディングを考えた。
- Q. 今回学習館での実施であると会場のキャパシティ上募集できる人数が少ないのかと思った。大きい会場で参加者も増えればチケット代は安くできるのか。
- A. 0・1・2 歳の乳幼児に向けて創られた作品は現状の人数が鑑賞最適人数である。まずは親子に鑑賞体験の良さを浸透させていきたい。また立川市では文化イベントのチケットが売れないと言われており、大きい会場では現状集客は苦戦している。

＜令和５年度 アイデア提案事業＞

世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが
幸せに生きるまちづくり啓発事業～

補助金交付予定額： ５００，０００円

補助金交付額（実績）： ３３３，２８９円

団体名：世界こどもの日 in 立川実行委員会

協働相手：立川市子ども家庭部子育て推進課

世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが幸せに生きるまちづくり啓発事業～
事業報告書

【事業の概要】

実施期間	5. 4. 1 ～6. 3. 31
事業の実績 及び内容 ＊「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いてく ださい。	●6/12(月)第一回打ち合わせ…子ども未来センター協働事務室 (実行委員会団体、外部協力団体、子育て推進課、子ども未来センター市民 活動コーディネーター) 内容の検討、当日までの流れの確認 ●7月～10月 グループLINEにて随時打ち合わせ (実行委員会団体、外部協力団体) ●10/10(火)学校など各所へのチラシ配布…作業:子ども未来センター (実行委員会有志) ●11/12(日)最終zoomミーティング (実行委員会団体、外部協力団体、ボランティア) 当日の流れ・場所割り振り・役割分担の最終確認 ●11/18(土)世界こどもの日in立川イベント本番…子ども未来センター ・子ども縁日(SwingRing)・オリジナルペン作り(立川みらい)・フリマ(いれたち) ・CDコマ作り(思いやりの会)・不登校座談会(NPO法人ゆとりある) ・受付、キーワードラリー、アンケート(ボランティア) ・ランチ販売(外部業者)・啓発動画上映(星槎国際高校立川) ・参加団体代表によるトークセッション…RISURUホール小ホールにて ●商店街イルミネーション&キャンペーン…立川南口西通り西会商店会
一般参加・利用者 人数 ＊団体・来場者数等	・SwingRing「こども縁日」(スタッフ6名、ボラ2名)約250名 ・思いやりの会「CDコマ作り」(スタッフ5名)約100名 ・立川みらい「オリジナルペン作り」(スタッフ3名)約60名 ・ゆとりある「不登校について講演会・おしゃべり会」約12名 ・「啓発動画の上映&5団体代表によるトークセッション」20名 ・キーワードラリー参加者(～18歳まで)121名・その他約500名
事業の成果・効果	事業の効果目標として掲げたうち ①「夢育て・たちかわ子ども21プラン」の実現に向けて市民への啓発 …来場者アンケート(回答74名)によると ●こども基本法のことを知っていましたか?…知らなかった…35名、あ ることは知っていた…26名、内容を知っている…8名 ●「夢育て・たちかわ子ども21プラン」を知っていましたか?…知ら なかった…50名、あるのは知っていた…14名、内容を知っている…8名 と、子どもの人権についての法律や施策の浸透がまだまだであることが わかった。と同時に、 ●このイベントは「子どもの権利・幸せ」について考えるきっかけと なりましたか?…はい…62名 いいえ…5名 と、当イベントを通して良い啓発の機会となったことが示された。 ②市内で活動している子育て支援団体の連携… 本事業では5団体と1高校、また市内の3商店と商店会とで連携して イベントを行うことができた。子どもたちの幸せを目標に掲げ、いろん な団体がかかわることで、多様な視点や方法でアクションができた。 ③行政との連携は、広報だけでなく今後の活動にもつながると考える。

世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが幸せに生きるまちづくり啓発事業～

自己評価

自己評価書

1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みましたか。（計画から実施・評価まで）	1 できた ② 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由 今回は3組織で実行委員会を立ち上げ、さらにイベント実施のために協力団体として3団体が参加と、多くの団体による協働事業となった。皆、各々の活動で多忙であり、なかなか対面で集まらない中ではあったが、グループLINEで細々としたところまで相談や共通理解を行い、zoomミーティングも活用して打ち合わせを行うことで、連携してイベントを成功させることができた。イベントについては各団体の運営に委ね、その他のチラシ配布やランチ販売店舗の選定については全体で相談し情報や人手を出し合うことで、実現することができた。 反省点としては、事務的手続きや全体運営（ボランティア管理やキーワードラリー企画準備など）が実行委員会の一部に負担が偏ってしまったことが挙げられる。ただ、これらは分担が難しい事柄でもある。理想は、イベントの企画・実施を行う団体とは別の人員で事務局を置くことではないだろうか。そのため今後は市民団体だけでなく行政や法人・企業が中心となしてほしい。
2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請（計画）時に期待した効果をあげることができましたか。	① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由 2022年までは1団体のみで世界こどもの日イベントを実施していたが、その団体の目的からのアプローチのみ（発達障害児支援）であり、「子どもの人権」を広く考えた際に、そのアプローチのみでは行き届かないという課題があった。 今回は多様な支援活動をしている団体が加わったことで、「ひとり親児」「多胎児」「不登校児」の支援、またこれらに上乗せに子育て家庭を応援する視点が加わり、多角的に子どもを支援するイベントの実施や啓発を行うことができた。 また、イベント内容も多岐に渡ることで、単純にイベントを楽しむにきた親子連れなど、たくさんの集客を実現することができたと考えられる。それにより、アンケート結果にも表れているように、多くの人が「子どもの権利・幸せ」について考えるきっかけとなったと考えられる。
3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。	アンケート「子どもたちの笑顔があふれ、歓声が聞こえるまち」ってどんなまち ●子育て環境、支援…子育てしやすい、安心して子育てできる街、支援の充実、気軽に立ち寄れる場所がある、子育てシェア、親も子もひとりぼっちにならない、みんなが支え合う街、みんな気軽に話せる、頼れる誰かがいる街 ●子どもの遊び場…安心して子どもたちが（子どもだけでも）過ごせる遊べる、楽しく遊べる（楽しい）公園がある、遊べる場所がいっぱいある、みんなが子どもを守ってくれる、安全安心であたたかい街、遊具のたくさんある広い公園、子どもの居場所がたくさんある街、安全に遊べる公園がある、夕方までハイハイの子でも遊べる場所がある、ボール遊びができる公園がたくさん ●学校教育…給食がおいしい、給食でイベントメニュー、教育資金完全無料化 ●イベント…イベントがいっぱい、市全体の大きなお祭り ●行政への要望…きれいになってほしい、公共交通の無償化
4. 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。	（実行委員会） 今回参加した6団体が、それぞれの目的や活動内容を理解する機会となり、その後それぞれの活動において連携する機会も生まれた。また、いろんな立場の子どもたちの幸せを願うという大きな視点を持つきっかけともなった。 （協働団体 子育て推進課） 本事業を通じて、夢育で、たちかわ子ども21プランに掲げる施策目標「子どもの権利を尊重します」、「地域のあらゆる構成員が連携・協力して事業を推進します」の推進につながった。
5. その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。	大きな反省点として、イベント企画団体の一つである「キラリっ子ファミリーカフェ」による上映会が、DVDが配給会社から送られてこなかったことにより当日中止となったことが挙げられる。団体代表が実行委員長として全体運営にかかりきりとなり、上映会運営を任せていたスタッフへの日配りが行き届かなかったことが原因として挙げられる。市民団体はそれぞれ多忙な個人が活動をしており、どうしても一人一人が抱えられる仕事量や負担は限られてしまう。また、善意の無償ボランティアであり多くを求められないこともある。大きなイベントを運営する際の人員確保や役割分担の難しさを痛感した。 本事業は、こども基本法制定の本年に実施し、今回で終了となる。だが、参加したすべての団体が「今後もこのような啓発の機会は重要だ」と感想を挙げており、今後何らかの形で子どもの人権啓発イベントができないだろう。行政や法人、企業が中心となることで、市民団体も参加しやすくなると思う。

* 自己評価の欄は、当てはまる番号を○で囲む、又は客観的に評価した内容を、事業を実施した皆さんで振り返り、記入してください。

世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが幸せに生きるまちづくり啓発事業～
収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	5 0 0, 0 0 0	3 3 3, 2 8 9
事業収入	1 0 0, 0 0 0	1 0 0, 0 0 0
合 計	6 0 0, 0 0 0	4 3 3, 2 8 9

支 出

単位：円

科 目		予 算 額	決 算 額
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	2 1 5, 0 0 0	7 8, 0 0 0
	消耗品費	3 5, 0 7 9	9 5, 9 8 0
	印刷製本費	7 6, 9 7 0	8 3, 7 3 2
	通信運搬費	1 8, 8 7 0	2 1, 3 7 0
	使 用 料	1 1 5, 0 0 0	4, 6 0 0
	保 険 料	6, 0 0 0	0
	委 託 料	3 3, 0 8 1	4 9, 6 0 7
	小 計(A)	5 0 0, 0 0 0	3 3 3, 2 8 9
その他	小 計(B)	1 0 0, 0 0 0	1 0 0, 0 0 0
合 計(A)+(B)		6 0 0, 0 0 0	4 3 3, 2 8 9

世界こどもの日 in 立川～すべての子どもたちが幸せに生きるまちづくり啓発事業～
報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

- Q. 別の団体同士が協働することに苦労をされたようだが、どこが主導すればよかったのかなど改善するには何をすればいいか
- A. 理想を言えば行政に主導してもらいたいけど普段の業務で忙しいので現実的ではないと思っている。その他の方法では社会福祉法人やNPO法人などの人員や給与体系が整っている団体に事務局をしてもらえば、自分たちのようなボランティアとして活動している市民団体も動きやすくなる。
- Q. 計画では協働相手として市役所に期待することとして、様々な団体としての橋渡しとあったが、実際どうであったか。
- A. チラシを小中学校や各施設に配布したが、その際に橋渡し役をして頂きスムーズに配布することができた。場所として子ども未来センターを借りるときも早い段階で手続きをすることができた。

令和5年度立川市協働のまちづくり推進事業補助金報告会

和田清美審査委員長 講評

ご報告お疲れ様でございました。ご報告いただいたのは、＜協働事業＞が1団体、＜アイデア提案事業＞3団体でした。いずれの団体の報告も、この1年間の事業の成果が大変よくわかる内容であり、本補助金交付の意義を再認識させるものでした。では、以下、審査委員会を代表して講評させていただきます。

第1報告は、＜協働事業＞3年目のにしき傾聴クラブ・NPO法人ブーゲンビリア・多摩ホスピスの会による「まちネットカフェ『よろず相談室』」です。週1回の「よろず相談室」は前掲3団体に加え、今年度は新たに1団体の参加があり、団体の連携が進んだことが示されました。また、今年度は4回のイベントを開催し自主財源が得られ、補助金交付が終わる来年度以降の運営に充てるとの嬉しいご報告がありましたことを言い添えます。

第2報告は、＜アイデア提案事業＞1年目の特定非営利活動法人たちかわ多文化共生センターによる「外国人児童・生徒生活支援事業」です。本事業は、市民生活部市民協働課および教育委員会指導課との協働で実施され、外国人児童・生徒相談窓口や子ども日本語教室など精力的な事業展開がご報告されました。この実績により令和6年度は市民生活部市民協働課の「委託事業」が開始されるとのご報告がありました。さらなる展開を期待いたします。

第3報告は、＜アイデア提案事業＞3年目の特定非営利活動法人立川子ども劇場による「はじめての音楽会～心豊かに育つには～」です。本事業は、産業文化スポーツ部地域文化課との協働で実施され、市内2か所での講演会とコンサートのセットでの公演を、初めて「有料」で実施されたとのことでした。この試みを補助金交付が終わる来年度以降の事業運営のための方策として高く評価するとともに、来年度以降の継続的活動を祈念いたします。

第4報告は、＜アイデア提案事業＞1年目の世界こどもの日 in 立川実行委員会による「世界こどもの日～すべての子どもたちが幸せに生きるまちづくり啓発事業～」です。本事業は、子ども家庭部子育て推進課との協働で実施され、ご報告は事前準備の段階とイベント当日のご苦労が伝わる内容でした。こども基本法の制定年に合わせた事業のため本年度限りですが、人権啓発にかかわる行政との協働の意向が示され、今後の活動を期待いたします。

以上のように、4団体からはいずれも今後の活動の道筋が示され、さらなる発展を期待させるものでした。なお、各団体の皆さまには質疑応答の際の審査委員の方々からのコメントや質問を今後の活動に活かしていただけると存じます。最後に、あらためて4団体の皆さまに本日の報告会へのご参加に対し感謝を申し上げ、講評とさせていただきます。

報告会の詳細は、立川市ホームページへ

立川市ホームページにて、報告会の詳細やようすを知ることができます。事業についてもっと知りたい方は、下記 QR コードよりご参照ください。



団体連絡先(許可をいただいた団体のみ掲載しています)

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| ◆にしき傾聴クラブ 中村 | nakamura.sf@gmail.com |
| ◆たちかわ多文化共生センター 細江 | tmc@poppy.ocn.ne.jp |
| ◆NPO 法人立川子ども劇場 小浜 | tachikawa.kodomo.gekijo@gmail.com |
| ◆世界こどもの日 in 立川実行委員会 中村 | kiraricafe2017@yahoo.co.jp |

令和7年度実施事業を募集します

市民協働課では令和7年度実施事業を募集します。下記 QR コードより、募集案内をご参照ください。



連絡・問い合わせ先： 立川市市民生活部市民協働課
〒190-8666 立川市泉町1 1 5 6－9（立川市役所2階）
Tel 042-523-2111（内線 2627） Fax 042-527-8074

*このプログラムに記載されている内容は、無断で転載しないでください。

令和6年8月作成